



H A K U T E N

2022年3月期

決算説明資料

株式会社博展（証券コード：2173）

2022年5月17日

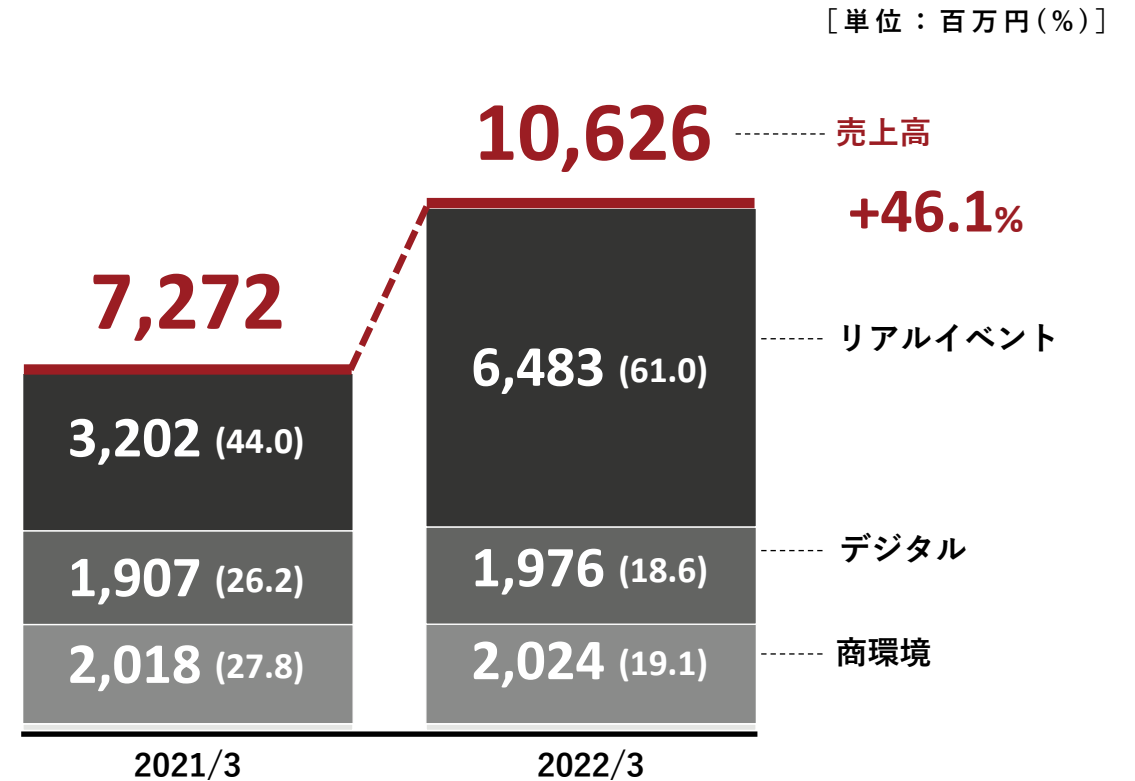
[単位：百万円 (%)]

	前期	当期 (比率)	増減
売上高	7,272	10,626	+ 3,354
営業利益	△ 587	532 (5.0)	+ 1,120
当期純利益	△ 189	760 (7.2)	+ 950

※当資料では、前年同期を前期と表記しております。

売上高は、前期比**46.1%**増加の**106億26百万円**
 緊急事態宣言等の発出がありながら、V字回復を達成

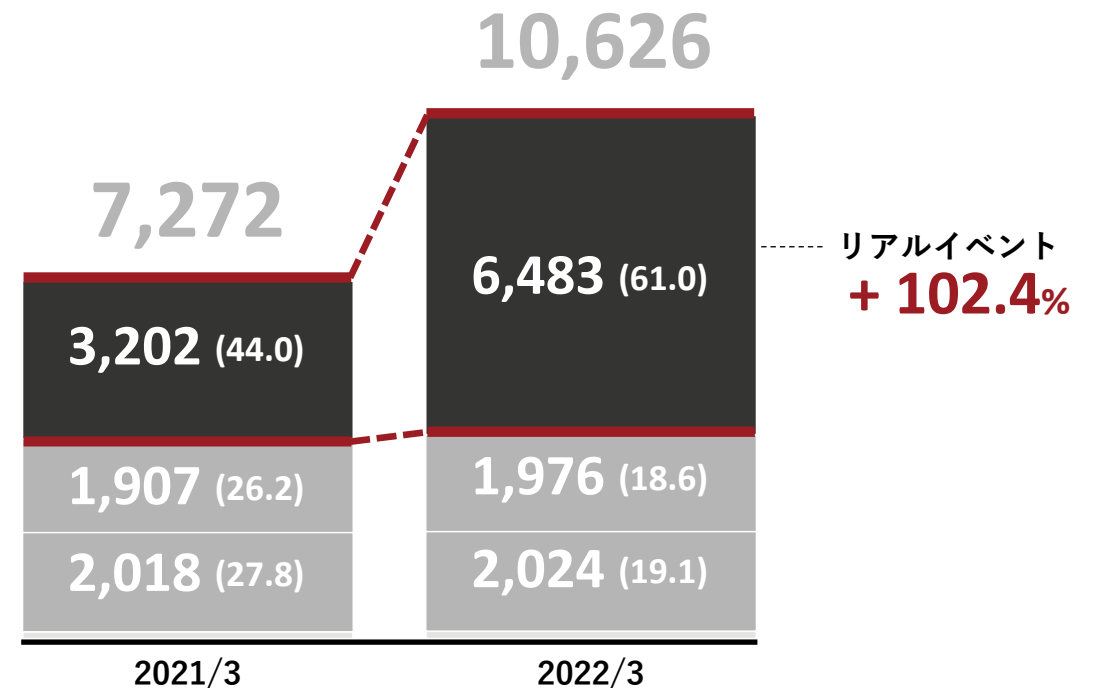
- ・ユニット型組織運営による顧客別営業強化
- ・当社独自の研修制度導入による提供価値向上に向けた取り組み
- ・ワクチン接種が進捗したことにより、各種制限の段階的な緩和に期待が高まり受注及び納品活動の環境が好転



新型コロナウイルスの影響を受けながらも、前期に比べ倍増

- リアルイベント分野を中心に大型イベントの開催が再開
- 期間限定のポップアップイベントやインスタレーション等の体験空間の制作/納品数が増加
- リアルとオンラインを融合したハイブリッド型イベントが前期に引き続き好調
- ワクチン接種の進捗により受注環境も好転

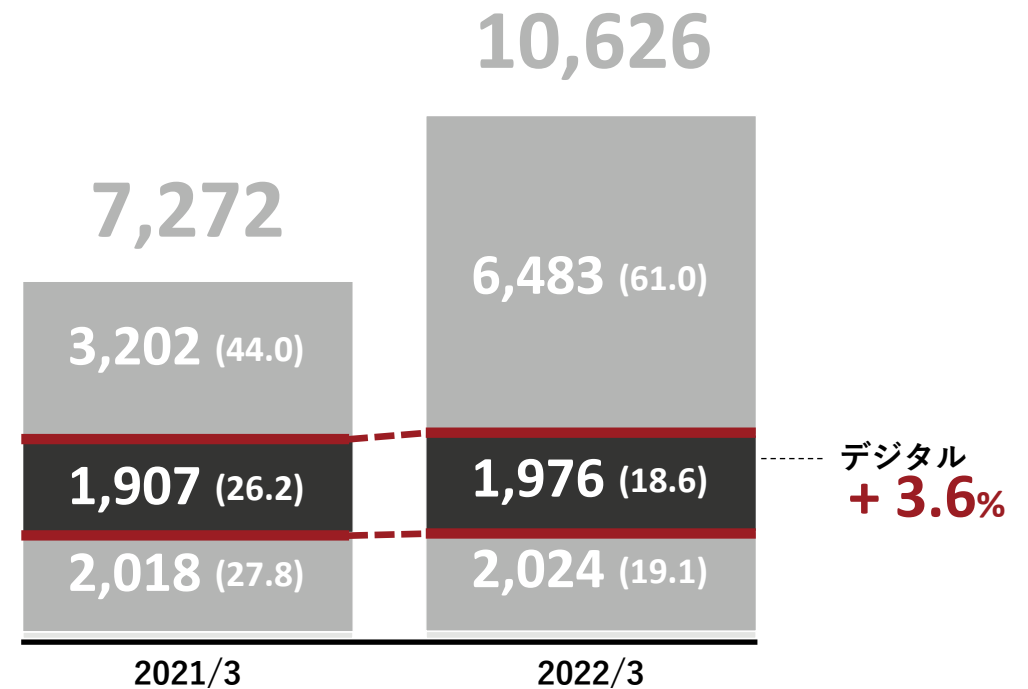
[単位：百万円(%)]



自社スタジオを活用したオンライン配信事業に加え大型のオンラインイベントが増加

- 2021年4月30日付で連結対象外となった株式会社アイアクトの※売上高を除いたデジタル分野の前期比は+46.6%
- 自社配信スタジオを活用したオンライン配信事業が前期に引き続き好調
- 大型のオンライン展示会やバーチャルイベントが増加
- グループ会社の株式会社スプラシアが提供するオンライン展示会プラットフォーム「EXPOLINE」の売上が増加

[単位：百万円(%)]

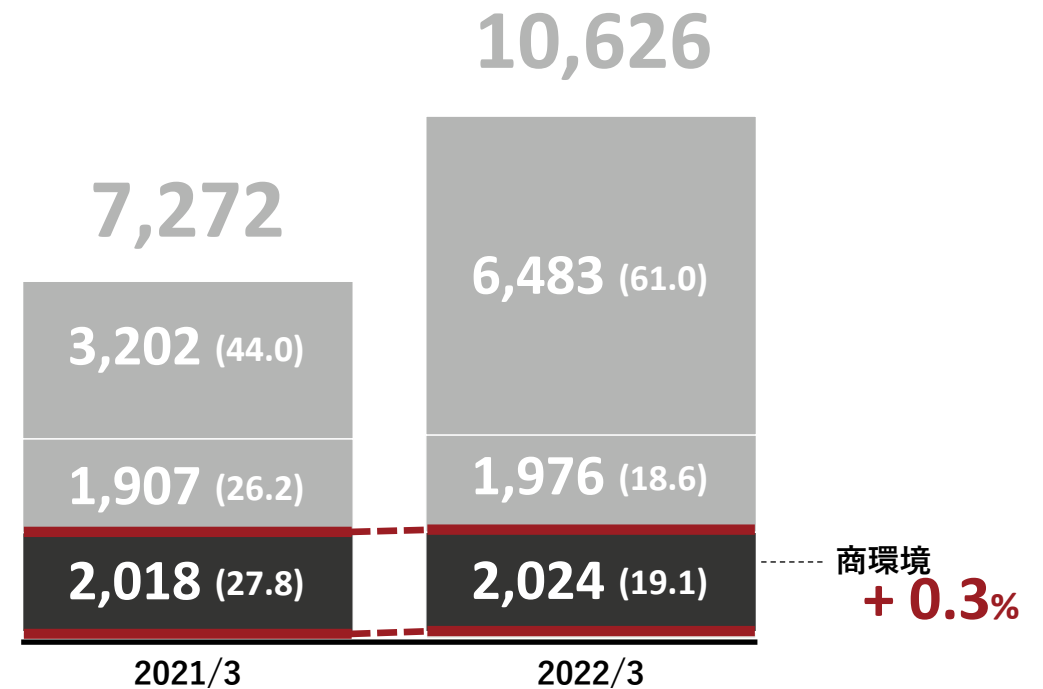


※前期のデジタル分野の売上高には連結対象外となった株式会社アイアクトの売上高5億58百万円を含んでおります。

大型のデジタル体験型施設等の内装空間のデザインや施工に加え、デジタルコンテンツの制作を請け負うなどサービス提供領域を拡大

- 常設のデジタルコンテンツの制作・開発
- 地方行政におけるDX推進拠点等の内装デザイン、施工等商環境のフィールドが拡大
- 株式会社ニチナンとの協業により常設空間における制作納品体制を強化

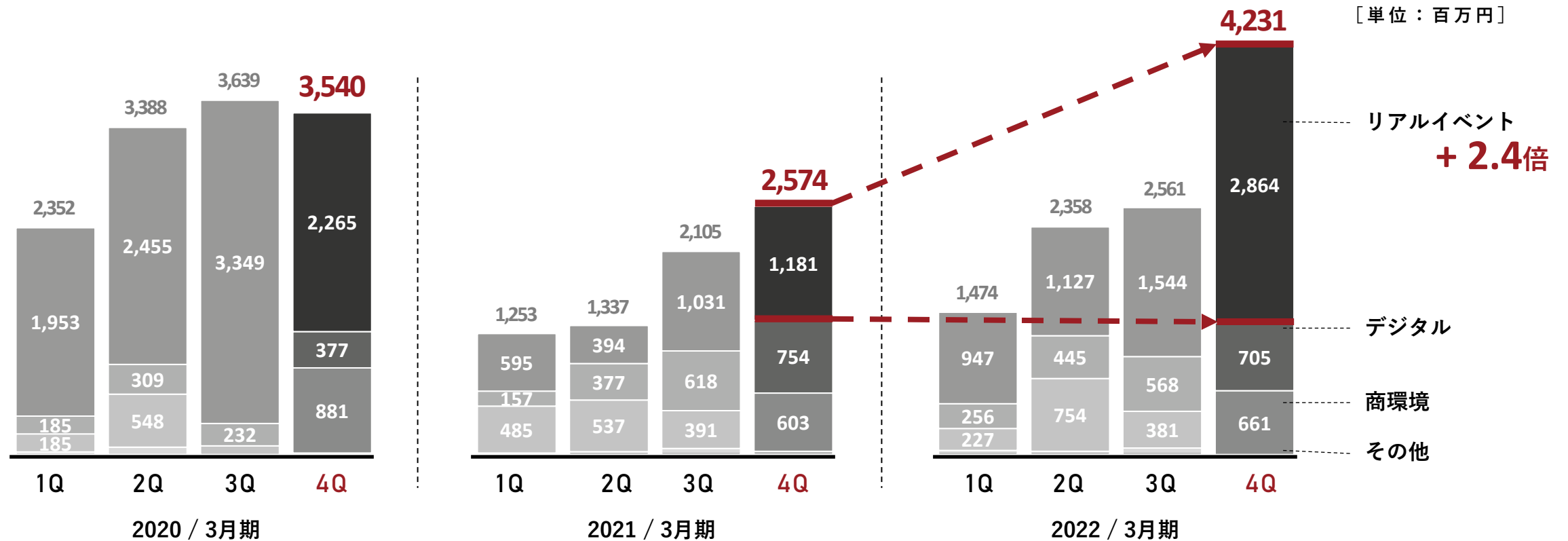
[単位：百万円(%)]



リアルイベント分野の回復が顕著となり、第4四半期売上高は過去最高水準

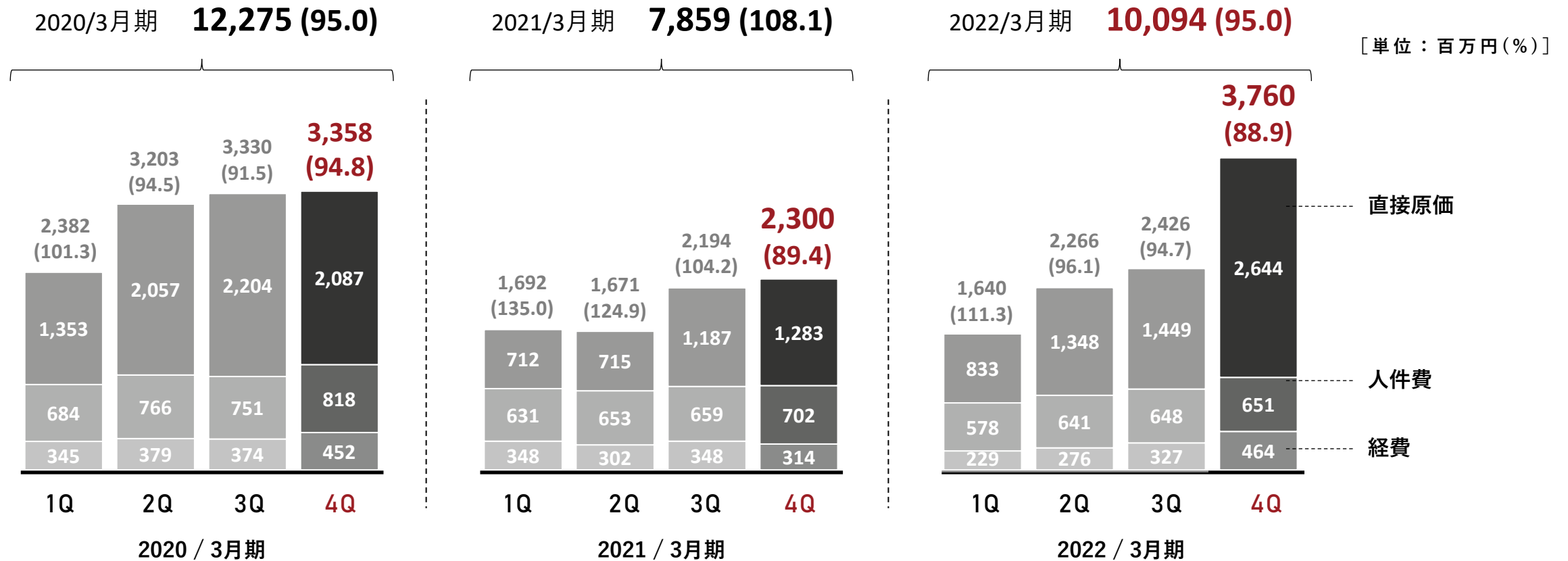
2020年4Q比較 **+19.5%**

2021年4Q比較 **+64.4%**



経費の見直しや、業務効率化により収益構造が改善

前期比 **13.1ポイント改善**

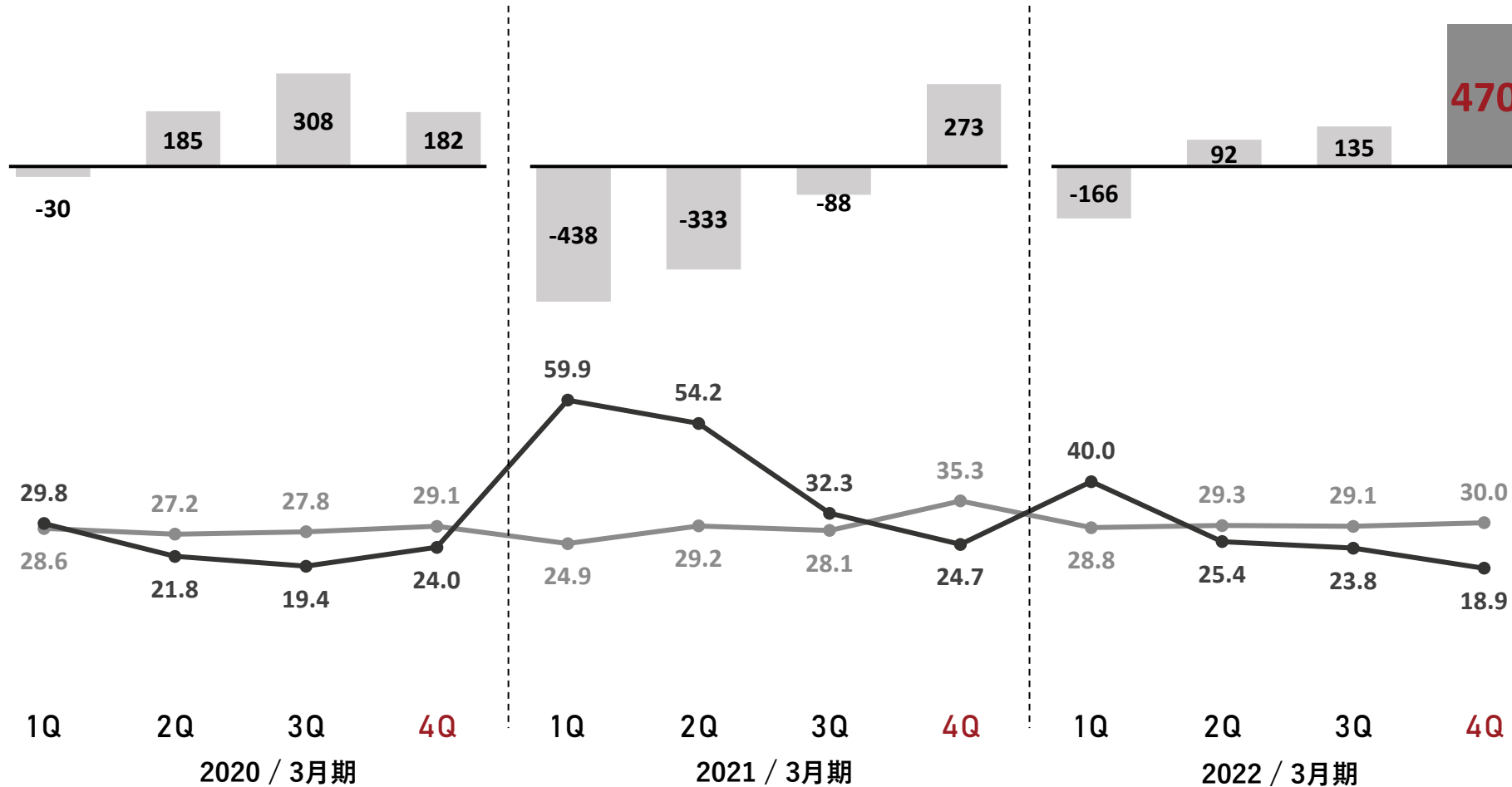


提供価値向上による売上拡大により、営業利益が大幅増加

通期営業利益 **532**

[単位：百万円]

四半期営業利益

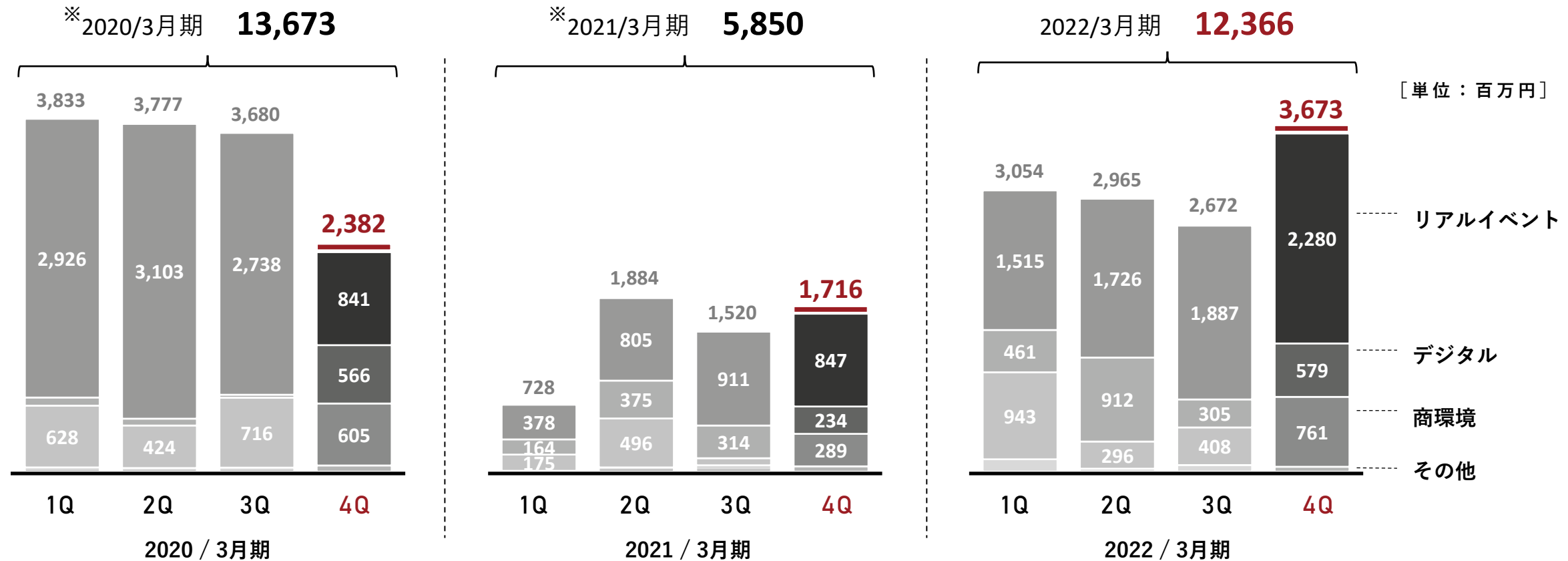


[単位：(%)]

売上総利益率

販管費率

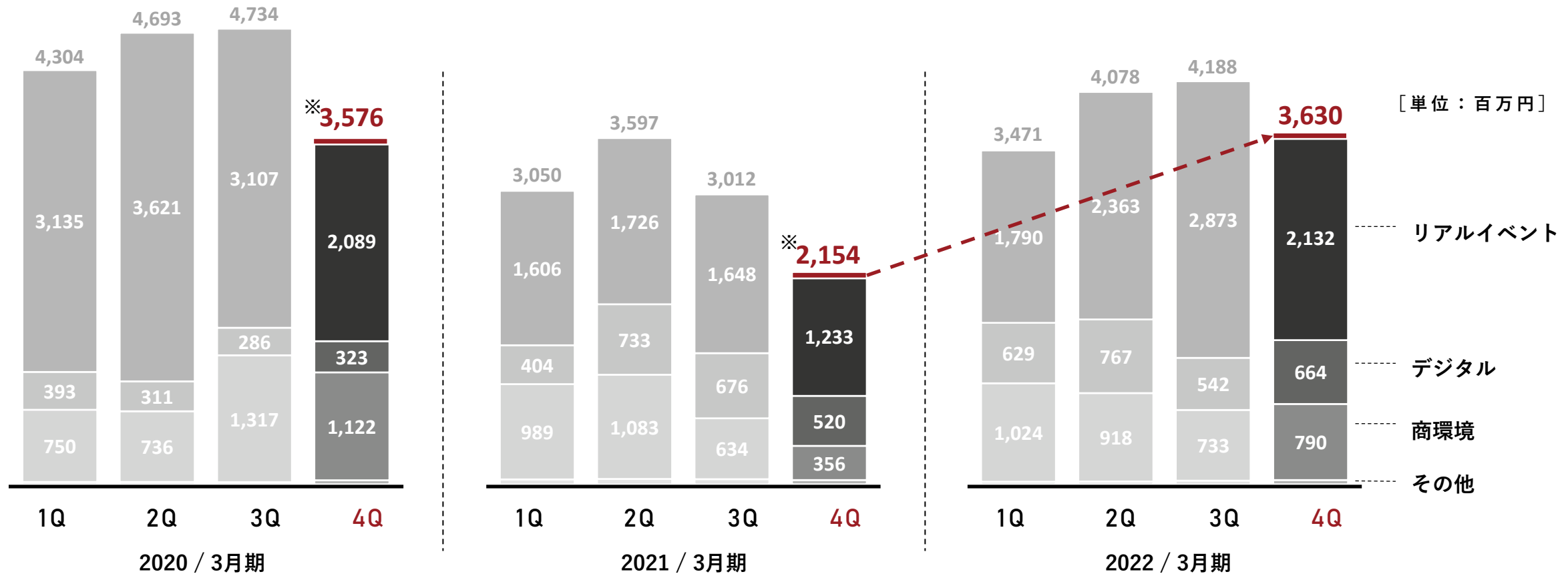
市場・顧客に合わせた事業ユニット戦略の推進により受注高はコロナ禍前の水準まで回復



※前事業年度及び前々事業年度には連結除外となった株式会社アイアクトの受注高が含まれております。

リアルイベント分野の受注が好調に推移し、**期末受注残高は過去最高値**

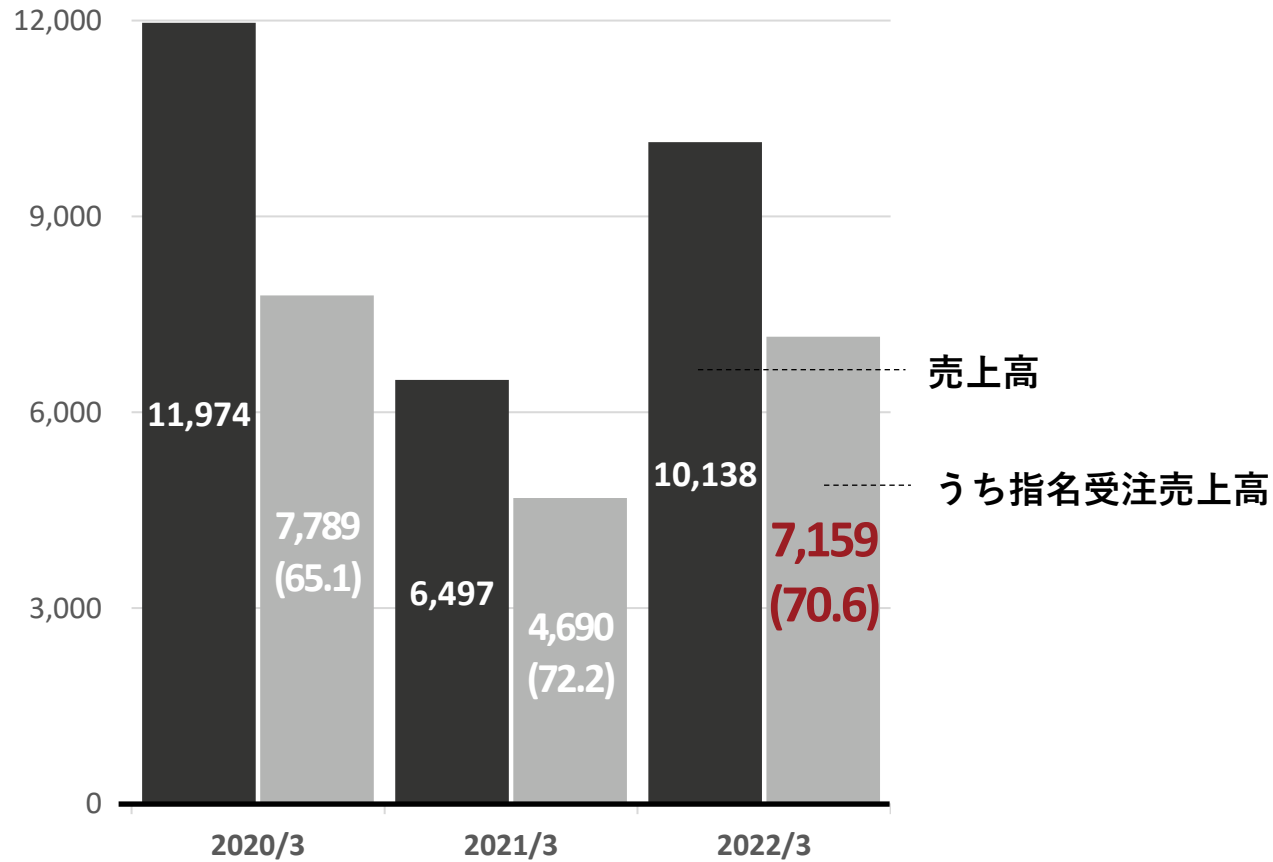
前期比 **+68.5%**



※前事業年度及び前々事業年度には連結除外となった株式会社アイアクトの受注残高が含まれております。

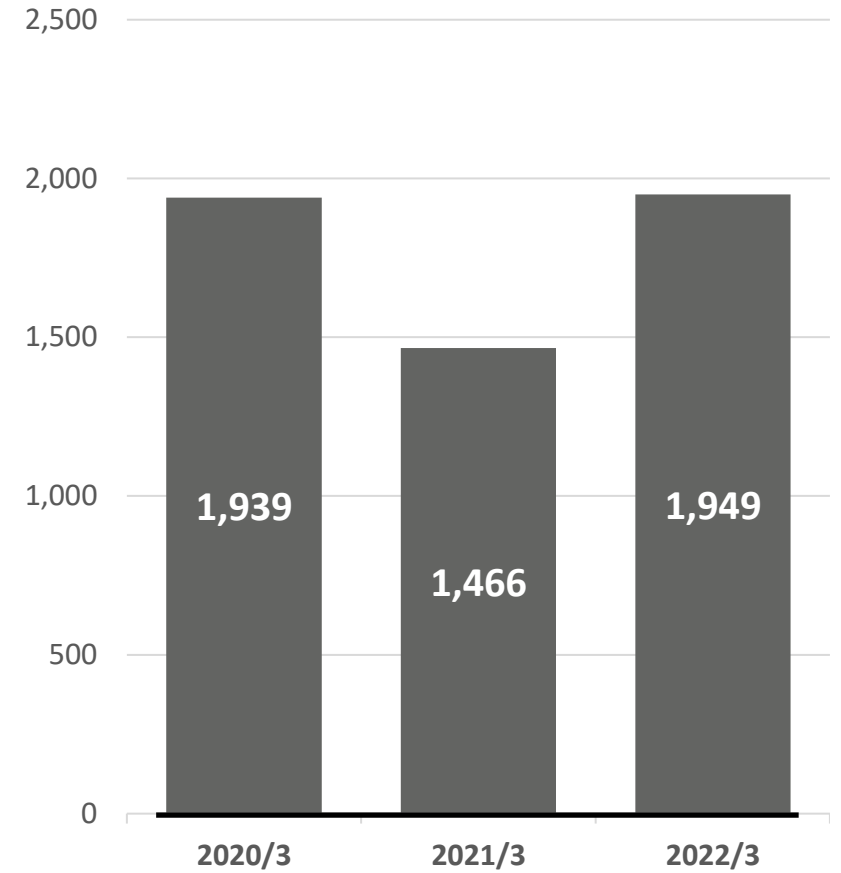
指名受注売上高

[単位：百万円]
()内は指名受注比率



顧客単価

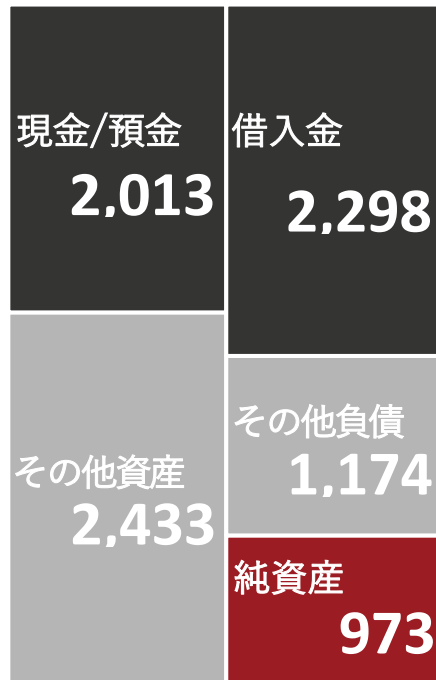
[単位：万円]



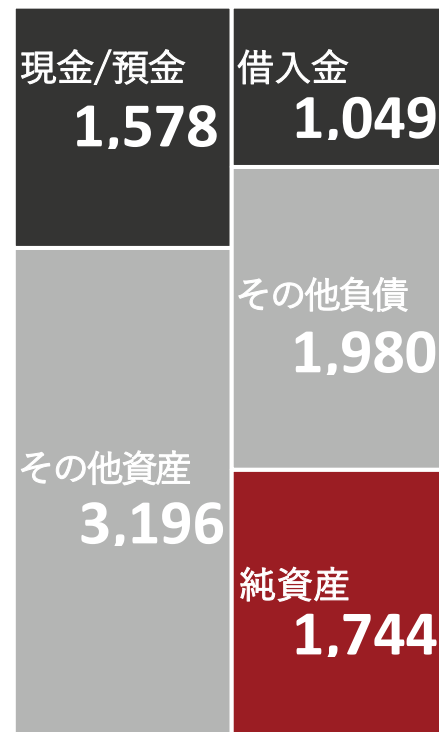
期間利益計上により、純資産は17億44百万円
また、資金収支改善により8期ぶりに実質無借金

[単位：百万円]

総資産 **47億75百万円**



2021年3月末時点



2022年3月末時点

資産 **+ 3億27百万円**

- ・ 売掛債権 + 8億30百万円
- ・ 現金及び預金 Δ 4億35百万円

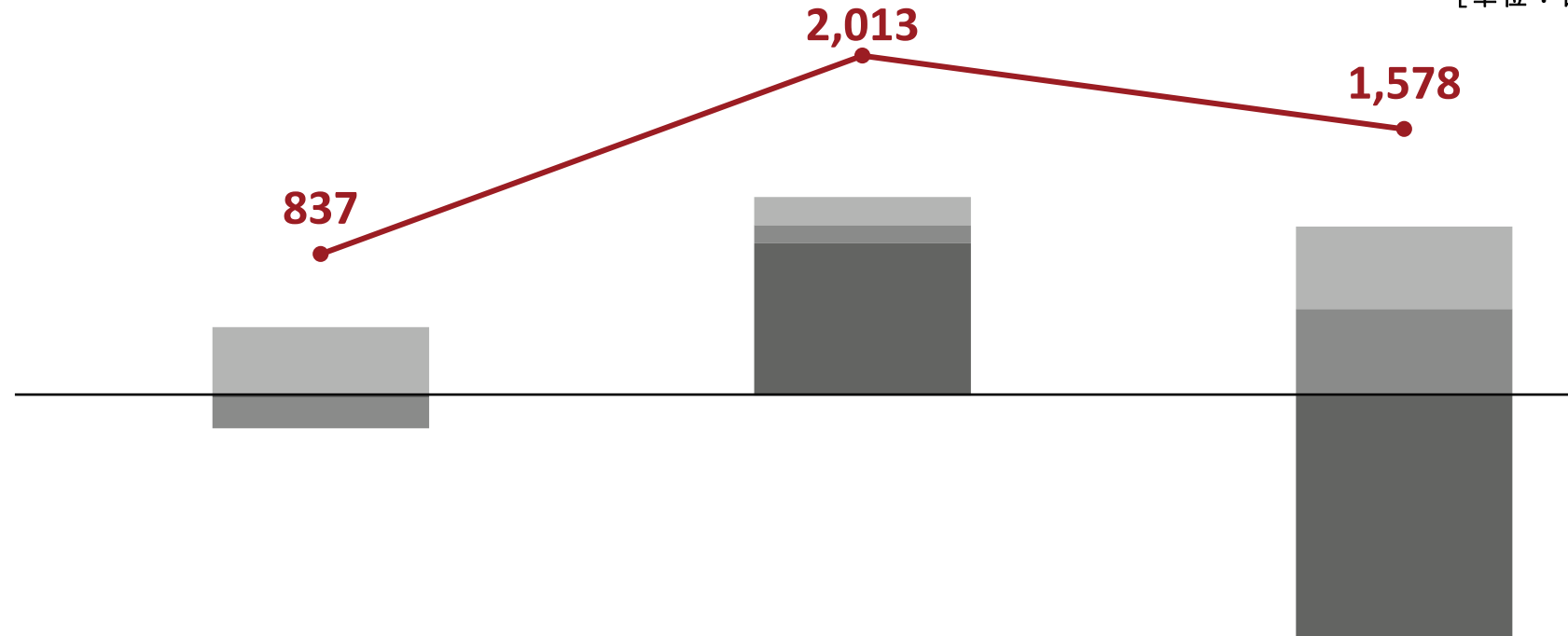
負債 **Δ 4億42百万円**

- ・ 買掛金 + 4億51百万円
- ・ 前受金（契約負債） + 1億 5百万円
- ・ 未払法人税等 + 2億58百万円
- ・ 賞与引当金 + 1億17百万円
- ・ 有利子負債 Δ 12億48百万円

純資産 **+ 7億70百万円**

- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益 + 7億60百万円

[単位：百万円]



	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
■ 営業キャッシュフロー	405	167	487
■ 投資キャッシュフロー	-183	108	513
■ 財務キャッシュフロー	-12	901	-1,436
● 期末残高	837	2,013	1,578

営業・マーケティングの強化



- ・ 広域広報 PR等による認知拡大
- ・ リード獲得・案件化・顧客深耕
- ・ 広告施策展開
- ・ インサイド/フィールドセールス
- ・ メルマガ配信



- ・ オンライン配信
- ・ WEBサイト開発
- ・ デジタルコンテンツ開発



- ・ イベントの未来を作り出す
- ・ リアル価値の再編集
- ・ アイデアの再編集
- ・ 仮説性の再編集
- ・ 地域資源の再編集

人材開発の強化

人事/研修制度

- ・ 社内研修プログラム **16本** → **40本**に増加

- ・ 社外研修受講費用負担制度

新たな提供価値創出に向けた取り組み

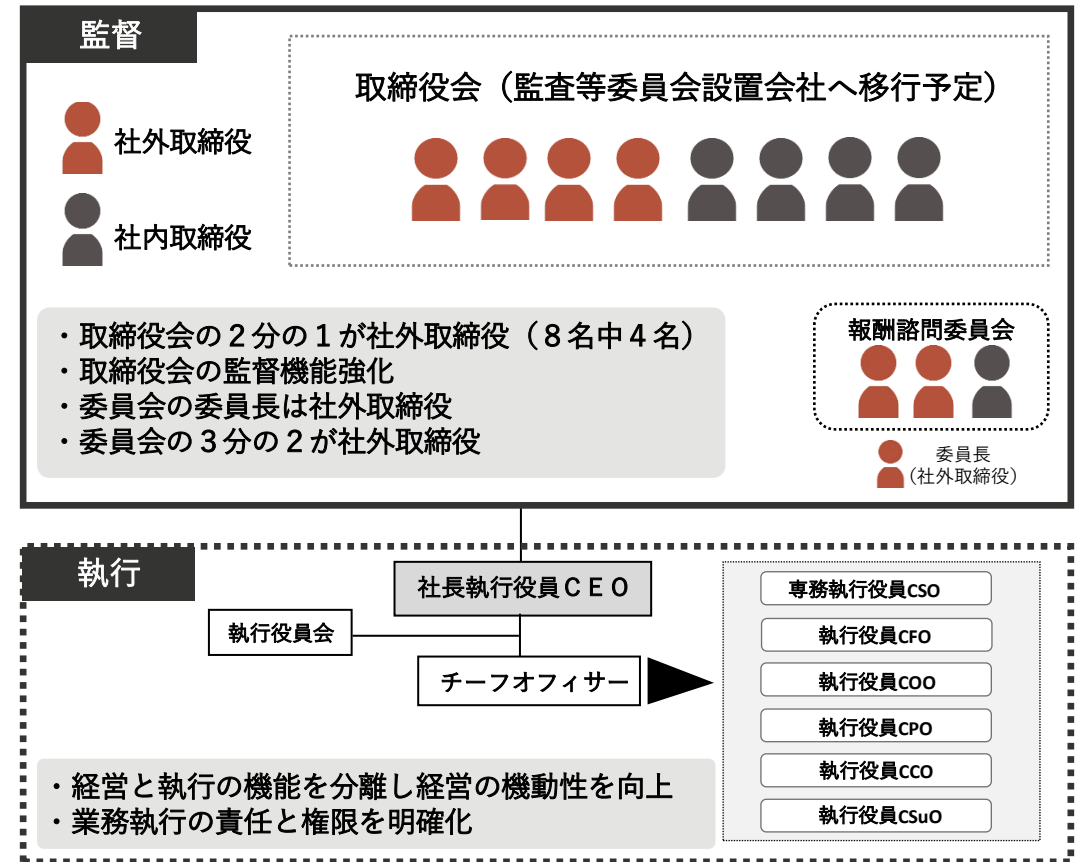
- ・ 社員エンゲージメント向上

社員の働く環境やプロセスの改善による社員エンゲージメントの向上

経営基盤強化

コーポレート・ガバナンス体制の強化

- ・ 監査等委員会設置会社への移行（予定）
- ・ 社外取締役の構成割合を**50%以上**へ（予定）
- ・ 社外取締役による専門性・経験等からの監督強化（予定）
- ・ 執行役員制度の導入（2022年4月1日付導入）



※2022年6月29日開催予定の第53回定時株主総会において、必要な定款変更についてご承認をいただき「監査等委員会設置会社」に移行予定

事業ユニット戦略の推進を中心に市場・顧客にあわせた体験価値の追求と並行して
事業基盤強化のための投資を積極的に推進

[単位：百万円]	2022年3月期		2023年3月期		
	実績	比率(%)	予想	比率(%)	増減率(%)
売上高	10,626	--	12,500	--	+ 17.6
営業利益	532	5.0	700	5.6	+ 31.4
経常利益	618	5.8	680	5.4	+ 9.9
当期純利益	760	7.2	480	3.8	△ 36.9

配当予想

[単位：円]

1株当たり	2022年3月期		2023年3月期
	2021年11月15日 修正予想	2022年5月10日 修正予想	予想
中間	0.00	0.00	10.00
期末	5.00	10.00	10.00
年間	5.00	10.00	20.00

株主優待

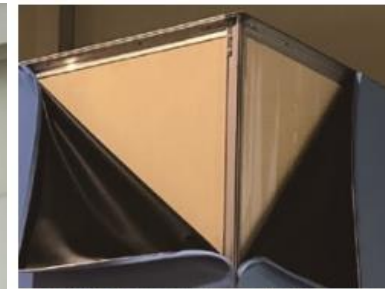
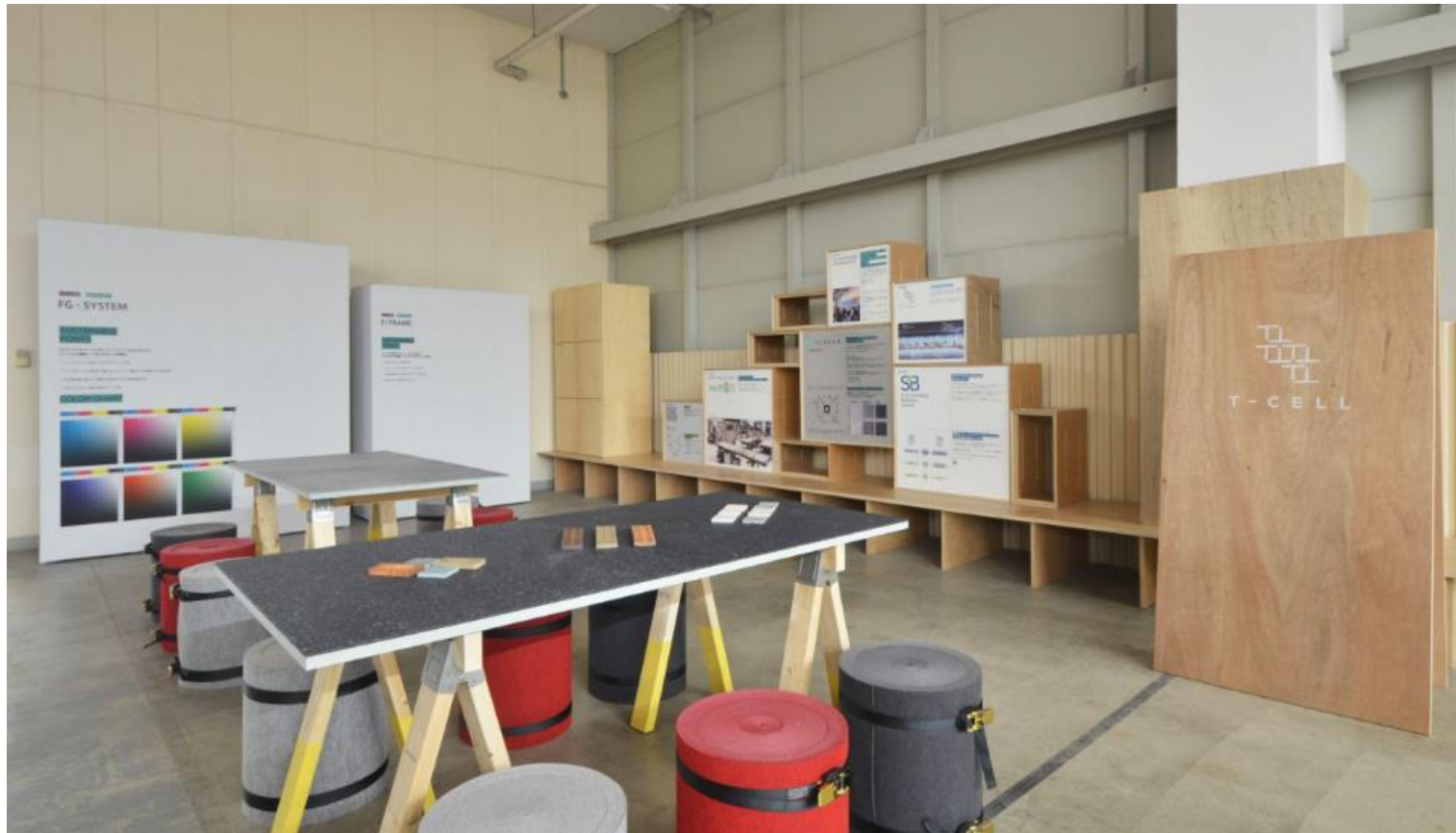
基準日	保有株式数	保有期間	株主優待内容
毎年 3月末	100株以上 1,000株未満	6カ月未満	—
		6カ月以上	QUOカード (500円) 1枚
	1,000株以上	6カ月未満	—
		6カ月以上3年未満	QUOカード (500円) 1枚
		3年以上	QUOカード (2,000円) 1枚

TOPICS

2022年3月期

事業トピックス

お客様へサステナビリティのサービスやプロダクト実績を展示するショールーム『T-CELL』を新設



■Product
FG SYSTEM
F/Frame SYSTEM

接着剤未使用の
リユース素材



■Material / Sample

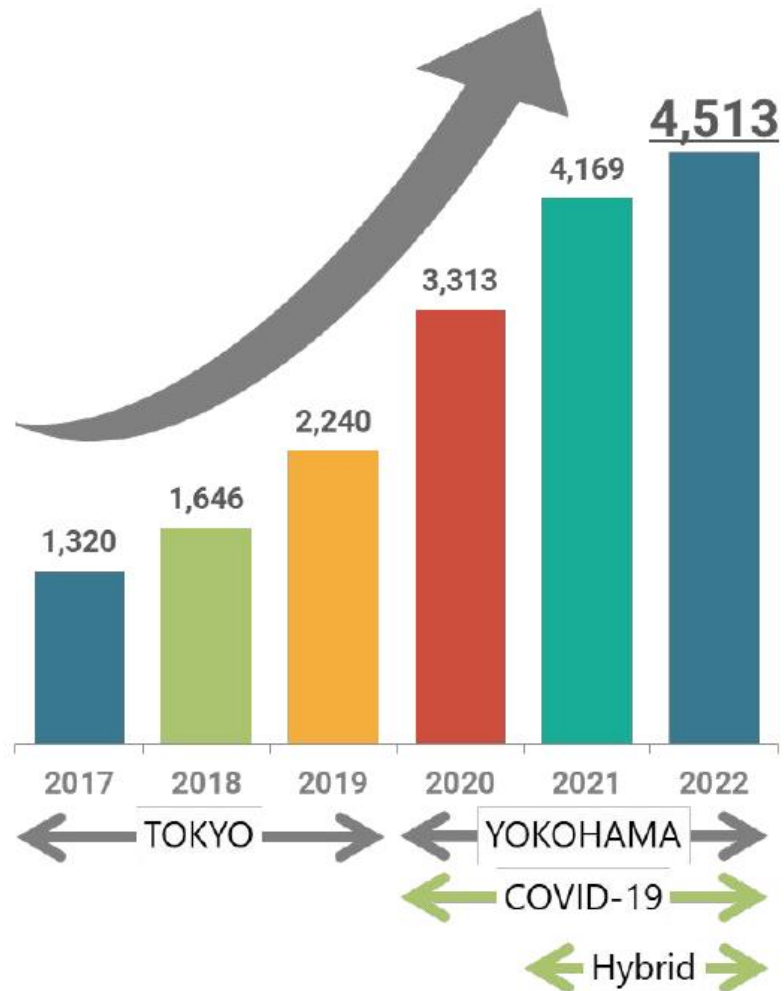
リサイクル
マテリアル



■Prototype

マテリアル研究
プロトタイプ
デザイン

サステナブルブランド国際会議開催報告



WORKS

2022年3月期

実績紹介

国際ロボット展
株式会社OMRON



IIFES

パナソニック

インダストリー株式会社



FOOMA JAPAN

ホシザキ株式会社



Hyundai House-Harajuku
Hyundai Mobility
Japan株式会社



YUMESAKI GALLERY
LG Electronics



野村IR
資産運用フェア
野村証券株式会社

野村IR 資産運用フェア 2022

オンライン開催

参加無料

1/7(金) ~ 1/8(土)

WEBサイトオープン期間

1/7(金) 8:00 ~ 1/31(月) ~ 15:00 (24h)

主催: 野村インベスター・リレーションズ株式会社
共催: 野村証券株式会社

ミライへ、シフト。
新しい生活様式。
好きな時間、好きな場所で
未来の私へ投資しよう。



Communication Design®

人と人の、笑顔が創り出す未来へ。

H A K U T E N

